

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科 職階 講師

氏名 井上 真紀

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

獣医生理学実習IIでは獣医師として理解しておかなければならない体の仕組みについて、人体や動物を使った実験結果を考察することでその理解を確実なものにさせるとともに基本的な仕組みだけでなく、生理的な範囲で生体の反応はバリエーションがあることを理解させるようにしている。

2年次の獣医療倫理・動物福祉、および5年次のOSCE医療面接事前実習では獣医師として他の人とのかかわり方、動物との向き合い方において独りよがりにならないように、共感の姿勢を身につけてもらう努力をしている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
OSCE医療面接事前実習	獣医学科	必修	5	140

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

獣医生理学実習IIでは、下級の学年では学生はただ暗記することが主体の学習になっているため、それに加えて自分で考え、理解できる学習にさせる。教科書を見て教科書的な標準的な機序しか暗記しないというのではなく、生体の反応にはバリエーションがあり、そのバリエーションも実験誤差などではなく、すべて身体の調節のための根拠のある反応であることを考えられる学生にする。

獣医療倫理・動物福祉および医療面接実習では、獣医師としての基本姿勢、動物に対する福祉的態度を理解してもらい、これからの獣医師としての倫理的福祉的態度を身に付けてもらう。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

獣医生理学実習IIでは、実習での実験データは失敗したらやり直しをすることで、最終的に失敗のないデータを得させて、それを考察させる。失敗データの場合、自分のデータでは考察できないので、教科書を見て教科書的な標準的な機序しか考察として書けない。しかし、生体の反応にはバリエーションがあり、そのバリエーションも実験誤差などではなく、すべて根拠のある反応をしている。従ってバリエーションは生理学的に説明ができるものであることからそうしたバリエーションのあるデータをそれぞれに持ち帰らせて、それをきちんと考察させる。そのレポートを提出させた後に考察の説明を行い、自らの考察が的を射たものであったのか、見当違いだったのか考えてもらうことで理解を深めてもらうようにしている。

また、獣医師としてはチームで働くことを身につけておく必要があるので、各実習項目で班員が協力してデータを取得するように促している。項目ごとに別の担当者を班で決めて、担当者がその項目のリーダーとなって班員全員で実験に取り組むやり方を取り入れている。これにより積極的な誰か一人が実験をして他は見ているという状況にならないようにしている。

獣医療倫理・動物福祉の授業では、獣医師としての基本理念を講義するなかに、実際に事例を多く紹介して、獣医師としてよくない対応、良い対応や動物に対してのよい姿勢を理解しやすいようにしている。こうした低学年での講義を踏まえて、5年次でのOSCE医療面接事前実習では模擬クライアントさん相手に獣医師として適切で共感的な対応ができるように実践してもらい、それを一般の方々に観察者として見ていただいて意見をいただいて、学生の気づきを促している。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

医療面接実習では、その場でスーパーバイザーの教員と獣医師役や観察者役の学生たちの意見交換があるので、アクティブラーニングになっている。

(2) ICTの教育活用

有

医療面接実習の現場では外部の一般の人にネットを通して医療面接を観察してもらい、意見をもらうという仕組みを取り入れて、より実習で体験する医療面接の効果が上がるようにしている。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

医療面接実習の現場では外部の一般の人にネットを通して医療面接を観察してもらい、意見をもらうという仕組みを取り入れて、より実習で体験する医療面接の効果が上がるようにしている。

(2) 学生の理解度の把握

B

医療面接実習では、その場で獣医師役や飼い主役、観察者役の学生や一般の方に、その時に医療面接について感想意見をもらい簡単にディスカッションするので、獣医師役の理解度をその場で確認できる。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

医療面接の実習前に、説明を行い、練習用の症例で練習しておいてもらっている。

(4) 学生とのコミュニケーション

B

特になし

(5) 双方向授業への工夫

A

医療面接実習は少人数での模擬医療面接なので、その実習自体が双方向である。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

該当なし

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

技術的なこと（観察者の音声聞き取りづらい、他のブースの音がうるさいなど）は都度改善している。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

施設で可能な範囲で対応はできていると考えている。

(3) (2) を踏まえた次年度の取組

これまでと同様に対応していく。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

特になし

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

特になし

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

FD等は極力参加している。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

私のやり方を厳しいとして、やっていることを全く理解できず、その結果、成績も悪く、自分が出来ていないことを棚に上げて文句ばかり言う学生が年に少数だったのがかなり増えている。例えば、成績留年経験者で試験に落ちて質問に来た学生が「自分は自信があった、そんな解答を書いた記憶はない、(間違っていた問題について) そんな問題ありました？」などと発言していたりする。まったく自分ができていない自覚がなく、試験に落ちたのは教員の採点ミスと言いたいようであった。学生の学力低下と自覚のなさが著しい。そういう人も理解できるようにするのはかなり難しくなっている状況と考える。大学全体で学生に意識改革を求める必要があるのではと考える。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

シラバス 学理教材 学理小テスト レポート課題 考察記述会課題 試験問題